

海外銅下振れ懸念

銅需要減少加速で在庫増加

非鉄原料

関東地区の非鉄金属リサイクル原料市場は、伸銅向け銅・黄銅系原料が横這い推移。

LMEは二八〇〇ドル台へ突入したが、二十日入電の後場で二九〇〇ドル台まで上げ戻し、NY現物も二三〇セント台を回復した。しかし、最近の銅相場は原油と連動気味で、原油価格は一時的とはいえ四年ぶりの安値を記録しており、銅も更に下がる可能性もある。景気後退は止まらず、〇九年の国内新車販売台

数は前年比四・九%減の四八六万台と、七八年(昭和五十二年)以来、三十二年ぶりで五〇〇万台を割り込む見込みとなった。また、エアコンを除く十一月の国内家電出荷額は同比一カ月ぶりの減少となり、電気冷蔵庫の落ち込みが影響した。その

して、十一月の工作機械の受注額も設備投資の冷え込みにより、同比過去最大の減少幅となった。銅電線や伸銅品需要を支える自動車や家電、設備投資の落ち込みにより、メーカーも減産を余儀なくされているため、原料購入量をかなり絞り込ん

レーガノミックス終焉

原料業界への影響を考える②

次期大統領のオバマ氏はケインズ経済学の有効需要の創出理論をもちいて、ルーズベルト大統領のニューディール政策を元にした政策(公共投資による雇用創出)を行うと発表している。

レーガノミックスが始まったのが一九八〇年、それにより景気が拡大したのが、一九八五年以降二〇〇七年頃まで(グラフ参照)。かりにそのときまで膨張したマネーが収縮するとしたならば国内自動車生産は二二〇万台(〇七年)から一〇〇〇万台へ(グラフ参照)、伸銅品生産は一〇〇万トンから八〇万トン台へと、五年間で約二〇%の減産が予測される(グラフ参照)。

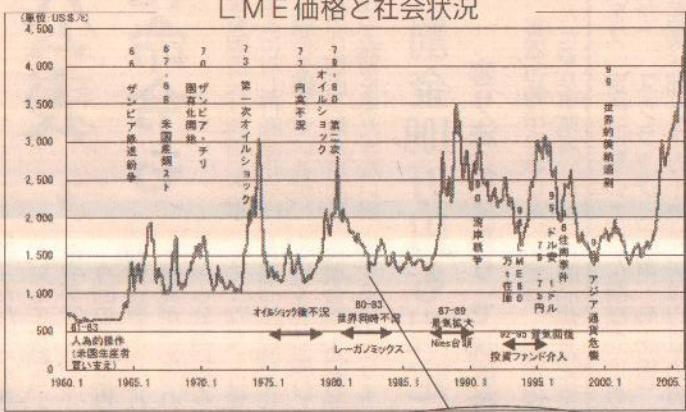
上期の生産を一〇〇%として下期に五〇%程度の減産が行われれば、通期で二〇%程度の減産が

でいる。今後は銅系リサイクル資源も買い止めとなる可能性が出てきた。

LME銅在庫は三二万トン超まで急増し、ひと月で約四万三〇〇〇トン増加。NY銅在庫も二万五〇〇〇トン際まで急増しており、ひと月で約一万四〇〇〇トンの増加と

なった。米住宅市場の落ち込みは底が見えないほど泥沼化しており、世界的な銅需要減少は一段と加速しそうな気配だ。

LME価格と社会状況



鉛建値推移(単位:キロ当たり円)

年月日	建値	月平均
08.5.21	266	282.8
6.2	250	—
9	247	247.7
16	233	240.4
23	241	242.7
7.1	228	—
7	209	212.5
14	255	239.6
22	263	242.5
8.1	284	—
7	270	273.1
18	228	249.8
25	249	255.6
9.1	260	—
8	235	241.3
18	228	238.5
10.1	235	—
7	207	212.1
16	193	204.5
22	181	200.1
11.4	199	—
10	187	189.7
17	179	185.7
12.1	156	—
8	136	141.3
19	131	139.9

